

事業概要書

事業名	佐賀から元気を送ろうキャンペーンプロジェクト				
開始日	2016/5/1	終了日	2016/11/30	日数	180
団体名	認定 NPO 法人地球市民の会				
(カウンターパート)	公益財団法人佐賀未来創造基金、佐賀県 CSO 推進機構等他、26 団体				
担当者名	岩 永 清 邦 (office@terrapeople.or.jp) 江口嘉人 (info@saga-mirai.jp)	スタッフ人 数	10 人		

事業費総額 (税込)	7,029,276 円
A-PAD ジャパン事業枠	5,000,000 円
その他資金	2,029,276 円

事業目的	<p>熊本被災地へのボランティア派遣活動と佐賀での被災者受入れ事業を通じて、被災者のみなさんに元気を届けることで一日も早い被災地復興に貢献する。また、熊本支援の経験を蓄積しボランティア派遣のガイドラインを作成することで、将来の災害時の緊急対応に備えることができる。</p>
事業全体の概要	<p>■佐賀から元気を送ろうキャンペーンとは、佐賀県民で震災支援のためにアクションを起こしたいと思う人がそれぞれに活動をし、その情報交換や協力をするために集った「想いのプラットフォーム」です。現在、NPO や企業を中心に 29 団体が賛同団体として登録されています。また、事務局は、認定 NPO 法人地球市民の会、公益財団法人佐賀未来創造基金、NPO 法人 CSO 推進機構が担っています。</p> <p>当キャンペーンは、東北大震災の時に結成され発生から 3 年間で 14 のプロジェクトを実施してきました。(http://www.genkiokurou.jp/)</p> <p>■活動概要</p> <p>【ボランティア募集・派遣・サポート及びボランティア派遣かかるガイドラインの作成】</p> <p>①ボランティアの募集と現地への派遣</p> <p>現地活動団体とボランティア活動日時、集合場所、活動者名、人数、ボランティア活動の経験の有無、資格など、現地ニーズの調整を行い、ボランティア人材バンク登録者へボランティア活動募集を行う。現地ボランティア活動の呼びかけに応じてくれた活動希望者と電話、メール、facebook など現地活動団体のこと、ボランティア保険の加入、現地の集合場所、担当者、連絡先、宿泊先、佐賀から熊本までの交通費の精算方法など、現地にてボランティア活動を行うまでの事前調整と確認を行う。派遣が決まったボランティアには、現地入り後スムーズに、安心してボランティア活動を行えるよう佐賀から出発の際にボランティア参加者間の顔合わせ、ブリーフィング(事前の情報共有)を実施したうえで現地へ送り出す。ボランティア活動後は、現地でのボランティア活動を振</p>

	<p>り返り、活動内容、現地の避難者の状況、避難所の状況、活動の気づきを整理、情報を引き継ぐことで、次の派遣ボランティア活動者を援助するよう働きかける。</p> <p>②ボランティアガイドラインの作成</p> <p>震災発生時から実施してきた熊本支援事業や熊本被災地でのボランティア活動を通じ、感じたコト、被災地の避難者の声、ボランティア活動者の声、避難所の変化、これからの支援活動に必要なコトを、活動日誌やヒヤリング・アンケートなどで掘り起こし整理する。緊急支援及び被災地支援での「人、物、金、情報」のニーズを熊本支援の対応を事例に、刻々と変わる現地のお困りごととその支援活動をフェーズごとに時系列で整理、佐賀での支援体制づくりも含めガイドラインとして集約する。</p> <p>③佐賀への被災者受け入れ事業</p> <p>余震が続く、被災地から佐賀県へ一時的な避難や佐賀県の方々との交流を通してプログラムを実施。現地の団体としては、当キャンペーンと連携団体である RQ 九州が担う。対象者の選定は、RQ 九州から熊本のニーズから被災親子を対象に佐賀に招聘する。プログラムの内容としては、佐賀の山間部の集落で受け入れてもらい、親は農家民宿でゆっくりしてもらい、子どもは佐賀の子どもや地域の方々とも交流を深め、心身ともにゆっくりしてもらおう内容とする。</p> <p>また、佐賀県や佐賀市と連携して一時避難者が住居する家屋が住める状態になるように物資の募集サポートや佐賀で被災した方のサポートも実施する。</p>
<p>事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)</p>	<p>裨益者 (誰が、何人)</p>
<p>①ボランティア募集と現地への派遣</p> <p>①-1 熊本被災地で活動できるボランティアを、インターネットを活用し募集。</p> <p>①-2 緊急的な被災地支援に対応するボランティアの募集及び継続的な被災地支援を行うためのボランティア人材バンクへの登録を呼びかける。</p> <p>①-3 ボランティア人材バンク登録者へボランティア活動の呼びかけ (募集)、その希望者と現地活動団体との調整。</p> <p>①-4 派遣決定ボランティアに対して佐賀事務所での事前レクチャー、参加者間のチームビルディングなどをコーディネートし被災地へ送り出す。</p> <p>①-5 現地ボランティア活動を経たボランティアに、ボランティア活動後の気づき、現地の状況を記録に残し、情報共有、引き継ぎの実施。</p>	<p>被災地人口</p> <p>熊本県 182.2 万</p> <p>熊本市 73.45 万</p> <p>益城町 3.26 万</p> <p>西原村 6,008</p> <p>南阿蘇村 1.202 万</p>
<p>②ボランティアガイドラインの作成</p> <p>②-1 熊本被災地での活動の記録を活動日誌やヒヤリング・アンケートなどから整理する。</p> <p>②-2、緊急支援及び被災地支援での「物、」のニーズを、物資あつめから (佐賀での活動)、物資の輸送に協力したボランティア (現地活動含め) にヒヤリング・アンケートを行い、整理・集約する。</p> <p>②-3、緊急支援及び被災地支援での「人」のニーズを、現地活動者、ボランティア派遣にかかわったスタッフより佐賀から熊本へ送り出すまで、また熊本での活動の気づきなどヒヤリング・アンケートを行い、整理・集約する。</p>	<p>佐賀から元気を送ろう</p> <p>キャンペーン 29 団体</p>

<p>②-4、緊急支援及び被災地支援での「金」のニーズを、募金、寄付集めにかかわったボランティア、スタッフより資金の使途、資金調達方法などヒヤリング・アンケートを行い、整理・集約する。</p> <p>②-5、緊急支援及び被災地支援での「情報」のニーズを「人、物、金」にかかわったボランティア、スタッフよりヒヤリング・アンケートを行い、整理・集約する。</p>	
<p>③佐賀への被災者受け入れ事業</p> <p>③-1 RQ 九州や体験事業を得意とする震災支援団体との連携により、熊本の方々を佐賀へ招聘する。主に、人とのつながりでチラシを配布し熊本県内からバスを手配する。</p> <p>③-2 佐賀では地域で受け入れを行ってもらえるようコーディネートも行っていく。</p> <p>③-3 当日の運営補助も行っていく。</p> <p>③-4 佐賀県・佐賀市との連絡を密に行い、お互いの情報共有を行っていく。</p>	<p>被災地より 30名～50名</p>

協働事業予算概要

計上費目		小計	備考
直接事業費	コンポーネント①	592,880 円	
	交通費（燃料費）	152,880	（佐賀⇄熊本+益城町）往復 182km×10 日 /月÷10 キロ×120 円×7 ヶ月
	印刷費	20,000	
	通信運搬費	30,000	携帯電話等
	消耗品費	100,000	佐賀から元気を送ろうキャンペーンユニフォーム等
	車両維持費	290,000	車両任意保険費
	コンポーネント②	830,000 円	
	資料作成費	560,000	地球市民の会、佐賀未来創造基金 （40,000 円×7 ヶ月×2 団体）
	交通費	60,000	現地ボランティア活動者へのヒヤリング 県内取材交通費
	印刷費		
	通信運搬費	30,000	
	消耗品費	30,000	PC 購入費（2 台）、ハードディスク、USB
		150,000	
コンポーネント③	82,400 円		
交通費（燃料費）	22,400	（佐賀市内打ち合わせ）往復 10 キロ×20 日/月÷15 キロ×120 円×7 ヶ月×2 団体	

	印刷費通信運搬費	30,000 30,000	
事業運営費	現地活動雑費 人件費 賃借料	2,842,000 円 140,000 2,520,000 182,000	現地に入って、現地団体との連携活動やニ ーズ調査などに行った際の宿泊費や日当 (20,000 円×7 ヶ月) 2016 年 5 月 1 日～11 月 30 日 2 名 (100,000 円×1.2×7 か月+200,000 円 ×1.2×7 か月 (①～③のコンポートネットを兼務) 熊本支援事務所賃借料 (TOJIN 茶屋利用 料) 26,000 円/月×7 カ月/
本部運営費		652,720 円	
総額 (税込)		5,000,000 円	